

4-4

主題 ハピネスBar へようこそ!!

暮らしの継続

副題 施設内の居酒屋から始まるコミュニケーション

研究期間 7ヶ月

事業所 特別養護老人ホームハピネスあだち

発表者：内山彰吾（うちやましょうご）

アドバイザー：

共同研究者：氏名 福田大輔、梶真弓、安谷屋里子

電 話 03-5839-3630

メール adachi-soudan@family-wf.jp

FAX 03-5839-3632

URL

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

ハピネスあだちは足立区の江北地区に位置し、都営住宅に囲まれた施設です。地区の高齢化率は30%を越えており、福祉サービスを求めている方々が多く住まわれています。そのような土地の中で、150室の特別養護老人ホームをはじめデイサービスやショートステイ、地域包括支援センターなどの事業所を併設し地域の核となる施設運営を目指し、日々取り組みを行っております。

《研究前の状況と課題》

ハピネスあだちには施設に入居される前、自宅で生活をされており、毎日晚酌をされていた方がいらっしゃいます。施設入居後も施設内としては飲酒に対し制限はないのですが、同ユニットに事情によりアルコールを飲めない方がいらっしゃるということもあり、どこか遠慮しながら飲んでいただいているのが現状でした。

そこで入居者様に入居前に大好きだったお酒を、入居後も誰にも遠慮せずに楽しみながら飲んでいただくためにはどうすればよいか検討しました。検討の結果、他の入居者様からも居酒屋でお酒が飲みたいという声が聞かれたこともあり、「それじゃあ、施設内に居酒屋をオープンし、皆様にいらしていただく」ということでこの取り組みが始まりました。

《研究の目標と期待する成果》

この取り組みの大きな目標は、入居前と同じような生活環境を作ること、入居者様が抱える喪失感や孤独感を少しでも軽減していただくことです。居酒屋の開催、参加を通じ、それまでは遠慮しながらお酒を飲まれていた入居者様に、誰に気兼ねすることなくお酒を楽しんでいただくことで、少しでもありますが入居前に近い環境で生活していただくことを目標としました。

また、入居者様、家族様、そして職員がハピネスBarを交流の場として、日常で感じる様々な思いを話すことで、より深い信頼関係を構築することが出来、入居者様を主体としたケアを行うことが出来るのではないかと考えました。

《具体的な取り組みの内容》

（内容）

施設内の居酒屋である“ハピネスBar”をオープンし、入居者様や家族様に来訪していただき、職員も交えた交流の場を作りました。

（対象者）

入居者様全員とその家族様

（開催日）

毎月第2、第4木曜日 19時～20時

（費用）

飲み物 1杯100円

つまみ 1皿100円

開催にあたり、全入居者（家族）様を対象に希望の有無、お酒を飲んで大丈夫か、何円まで使用してよいか、などのアンケートをとり、参加者を募りました。

また、現場の介護職員や生活相談員だけでなく、管理栄養士・看護師・事務職員などとも意見を重ね、多職種が連携することにより、取り組みをおこないました。

第1回は2010年1月19日に行い、多くの入居者様、そして家族様が来訪、にぎやかな雰囲気になりました。当初は1カ月に1回のペースで行いでしたが、嬉しいことに参加希望者が予想を大幅に上回り、現在は1ヶ月に2回のペースで開催されています。

《取り組みの結果と評価》

ハピネスBarを開催し、入居者様の新たな表情を発見することが出来ました。毎回当日になると、「今日だよね!」「次はワインが飲みたい!」等と職員へ声がかかります。また、家族様も入居者様や職員と、お酒を囲みながら、思い出話を話してくださるなど、普段よりゆっくりとコミュニケーションをとることが出来、ハピネスBarを楽しまれていました。また、家族様同士も情報交換や共有が行える等の効果もみられました。

職員にとっても、入居者様と一緒にお酒を飲むことが出来るなど、参加型の企画のため、自発的に参加する職員が見られ、「また参加したい!」という声が聞かれました。

《まとめ》

この取り組みを行うことにより以下の成果があげられました。

- ①入居前からお酒を自宅で飲まれていた入居者様へ、在宅生活からの継続的な支援を行うことにより、入居者様に安心した施設生活を営んでいただくことができるようになりました。
- ②入居者様や家族様同士のコミュニケーションが増えました。
- ③職員と入居者様との関わりが深くなり、職員からの「次はこれをやりたい!」という意見がでるなど、援助に対する意欲が高まりました。

《提案と発信》

ユニットケアにおいて大切なことのひとつに「暮らしの継続」があると思います。施設に入居したからできなくなってしまうことというのは少なからずあるとは思いますが、可能な限り、入居者様の思いに寄り添い、意向に沿って生活を送っていただく、このような援助を行えるよう日々とりくんでいます。

【メモ欄】追加資料 無